読者の声を受けて

Q 大学との共同研究事例など、どんな産学連携を行っているか教えてください。



当社では、様々な大学との産学連携を行っています。これまでに、共同研究の成果として、地震時の段差抑制工法である「HRB工法」や、ワインの搾りかすを活用した環境浄化技術である「GRMバイオ工法」などを実用化してきました。現在は、CO_2の排出を抑制する舗装材料や耐久性の高い舗装材料の開発、インフラの延命に寄与する補修技術の開発、ICT･IoTを活用した施工のデジタル化による省人･省力化などの共同研究に取り組んでいます。これらの産学連携を通じて、持続可能な社会インフラの実現に貢献してまいります。



品質管理試験を実施している様子

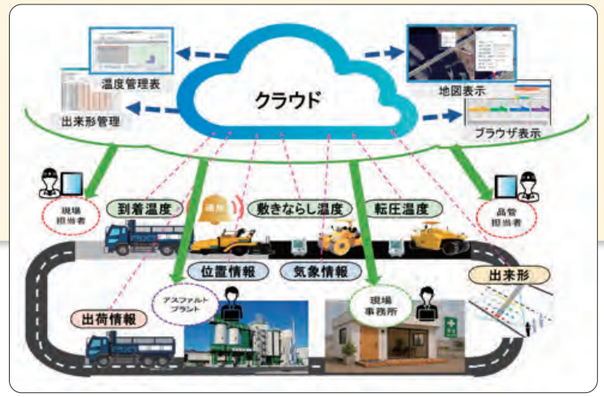


総合技術部 技術研究所
研究第一グループ
吉田　雅義

Q 社員のDXやAIへの関心が高まる中、どのような取り組みを進めていますか。



先般、当社では舗装現場における品質管理にデジタル技術を取り入れ、省人化に資する技術を開発しました。それらの技術活用を通じ、重機との近接作業の削減による安全性の向上や帳票の自動出力による省力化も可能となり、労働環境の改善にもつながります。こういった事例のほかにも、DXを推進する動きが社内に広がっています。AIについては、Microsoft Copilotが社内導入されたほか、工事積算や工程管理、データ管理などの分野でAIの活用が検討されており、検証が進めば随時、社内導入されるものと考えます。



Paving Manager As（アスファルト舗装の一元管理システム）概要図



工事部
ICT推進グループ
立花　洋平

Q サイバー攻撃の高度化を踏まえた今後のセキュリティ強化方針を知る機会はありますか。



当社では、「侵入防止」対策に加え、「侵入された場合も被害を最小限に抑える」体制強化に取り組んでいます。具体的には、セキュリティリスクとなり得る機器の接続制御や、通信内容の監視･分析を行い、適宜通信遮断を実施しています。また、インシデント対応訓練を通じたCSIRT（Computer Security Incident Response Team）の継続的改善や、バックアップサーバーのイミュータブル化（変更･削除ができない設定）も進めています。今後も、継続的な強化を図るとともに、掲示板やCSRレポートを通じて共有いたします。



セキュリティ訓練の様子



情報システム部
情報システムグループ
丸山　成夫

Q 合材工場の品質管理担当者のレベル向上と社会的信用回復のため、資格制度の導入を検討してはどうでしょうか。



当社では、合材工場の品質管理レベル向上と信頼確保のため、体系的な研修と資格取得の両面から人材育成を進めています。工場では、原材料･設備･配合･製造工程･製品に至るまで一貫した品質管理や記録管理を実践し、確かなものづくりに取り組んでいます。また、工場の品質管理担当者には、配合設計や品質管理業務経験を活かし、舗装施工管理技術者（1級、2級）の資格取得を推奨しています。



社内研修時の意見交換会の様子



合材部 合材グループ
鍋石　文秋